
2020年度第3四半期決算 及び
2020年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社

2021年2月8日

帝人グループ業績（販売）へのCOVID-19影響

前回公表時と比較し、3Q以降の回復傾向はやや強まる

時期	業績影響（前四半期対比） [] 内、前回公表時前提	具体的影響
第1四半期 (4-6月) 実績	期初公表対比落ち込み幅大	<ul style="list-style-type: none"> 北米自動車Tier1事業は当初OEM生産大幅減による影響を大きく受けたが、四半期後半は回復傾向 より川上に近い素材関連分野では前半はサプライチェーンにおける在庫確保のための需要があり、後半に影響が遅れて発現
第2四半期 (7-9月) 実績	急速な回復	<ul style="list-style-type: none"> 北米自動車Tier1事業は急速に回復 航空機向け需要はさらに減少 医療用防護具（ガウン等）は大きく業績に貢献
第3四半期 (10-12月) 実績	回復傾向は想定よりやや強まる [2Q回復により回復の傾きは鈍化]	<ul style="list-style-type: none"> 前回公表と同様に自動車を中心に回復傾向が継続 航空機向け需要は低迷が継続 医療用防護具（ガウン等）の業績貢献は限定的
第4四半期 (1-3月) 見通し*	回復継続するも 感染再拡大の影響注視要 [回復継続するが収束に至らず]	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に回復傾向が継続するも、自動車部品向け半導体不足や感染再拡大の影響等に注視が必要 航空機向け需要は低迷が継続

主要市場別動向（2020年度）

市場	主な事業	主な地域	3Q累計実績	4Q見通し	備考
自動車	アラミド 複合成形材料	欧州 米国	1Q需要大幅減 2Q以降回復	回復継続 *1	米国のSUV/ピックアップトラックは2Qで急回復、欧州も2Q以降回復
航空機	炭素繊維	欧州 米国	1Q需要大幅減 2Q以降低調継続	低調継続 *2	航空機需要の低迷長期化で中期的に厳しい状況継続
ヘルスケア	医薬品 在宅医療 新規ヘルスケア	日本	堅調	堅調維持するも 医薬品は季節 要因で販売減 *2	主力医薬品の販売や在宅医療機器レンタルは堅調に推移
医療用防護具 (ガウン等)	繊維・製品	日本	逼迫した医療 現場への早期 大量供給ニーズ	需給バランスが 緩和 *2 (官需は一旦収束)	3Qで必要量が概ね充足
IT	IT	日本	好調	好調継続 *2	巣ごもり需要で電子コミック配信サービスが拡大

今回公表のポイント

3Q累計実績、通期業績見通しともに、

- ✓ マテリアル事業が上期中心にCOVID-19影響を大きく受けたが、繊維・製品事業の医療用防護具（ガウン等）の供給量拡大が業績に貢献。自動車関連用途は期間後半にかけて需要回復
- ✓ ヘルスケア事業は薬価改定影響はあるものの業績が底堅く推移。IT事業も好調

長期化が想定される航空機需要の低迷による、炭素繊維事業の中長期見通しへの影響懸念

■3Q累計実績

- 売上高は前年同期対比6%減の6,097億円、営業利益は同6%減の452億円
- マテリアル事業はCOVID-19影響を受けたが、2Q以降黒字化
- 繊維・製品事業の医療用防護具（ガウン等）の貢献大

■通期業績・配当見通し

- 3Q累計実績や今後の業績動向予想を踏まえ、通期売上高・営業利益・経常利益予想を上方修正
- 当期利益予想は炭素繊維事業における固定資産減損懸念等を見通しに織り込み、赤字見込みに
- 年間配当は50円/株の見通し（中間配当は25円/株）から変更しない

1.	2020年度第3四半期決算	P. 5
2.	2020年度業績見通し	P.13
3.	主要トピックス	P.22
4.	参考資料	P.31

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

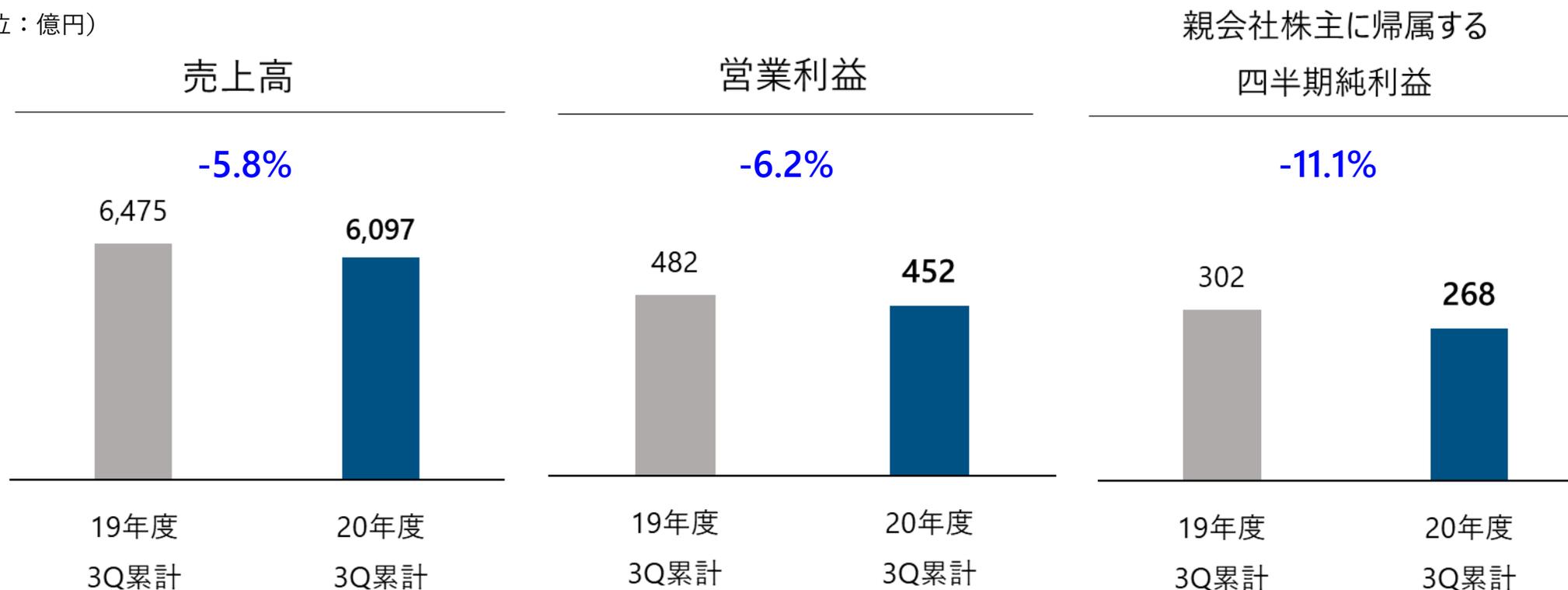
本資料は2021年2月8日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2020年度第3四半期決算

◆ 実績ハイライト [前年同期対比]

- COVID-19影響下、繊維・製品事業で医療用防護具（ガウン等）の供給拡大による売上貢献があった一方、マテリアル事業での自動車・航空機用途の需要減、ヘルスケア事業における薬価改定影響があり、全体として減収
- 営業利益は、マテリアル事業における減益やヘルスケア事業の薬価改定影響はあったものの、繊維・製品事業における医療用防護具（ガウン等）の貢献、堅調なヘルスケア事業の販売やIT事業の好調持続により減益幅を縮小
- 四半期純利益は営業利益の減少等に伴い減少

(単位：億円)



◆ 実績サマリー [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	6,475	6,097	-377	-5.8%
営業利益	482	452	-30	-6.2%
営業外損益	-8	-24	-16	-
経常利益	474	429	-46	-9.7%
特別損益	-35	8	+43	-
税金等調整前 四半期純利益	440	437	-3	-0.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	302	268	-33	-11.1%

ROE ^{*1}	9.7%	8.7%	-1.0%
営業利益ROIC ^{*2}	9.7%	9.3%	-0.4%
EBITDA ^{*3}	862	838	-24

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*1,2は年換算後の数値

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
設備投資 ^{*4}	465	411	-54	-11.6%
減価償却費	380	386	+6	+1.5%
研究開発費	246	227	-19	-7.6%

◇ 為替・原油価格

		19年度 3Q累計	20年度 3Q累計
PL換算レート	円/米ドル	109	106
	円/ユーロ	121	122
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		63	39

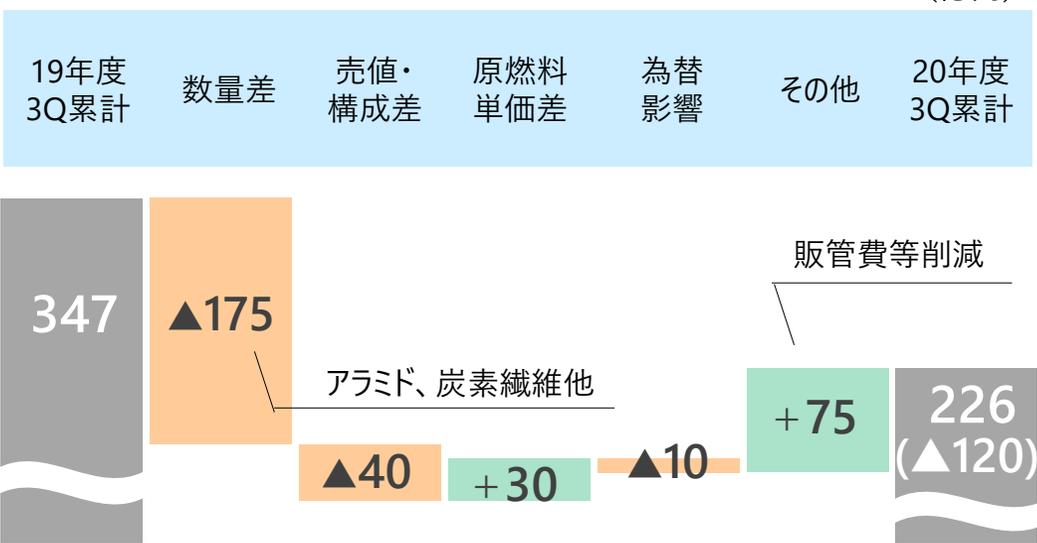
*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◆ マテリアルセグメント [前年同期対比]

	(億円)			
	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	2,501	2,060	-442	-17.7%
EBITDA	347	226	-120	-34.7%
減価償却費	216	230	+13	+6.2%
営業利益	131	-3	-134	-
営業利益ROIC	6%	-0%	-6%	

< EBITDA増減内訳 >



COVID-19の影響大

- アラミド繊維
 - タイヤ補強材、摩擦材などの自動車関連や光ファイバーを中心に、用途全般において販売量が減少したものの、各市場の回復に合わせて販売量は回復傾向
- ポリカーボネート樹脂
 - ノートパソコン向けの特需はあったものの、事務機用途や自動車用途での需要減により、販売量が減少
 - 期間後半にかけて主原料であるBPA市況価格が高騰した影響あり
- 炭素繊維
 - 航空機用途において販売量が大幅に減少しているため、風力発電用途やレクリエーション用途の販売を強化
 - 中間材料開発や北米炭素繊維新工場立上げ準備を継続
- 複合成形材料
 - SUV・ピックアップトラックを始めとする米国自動車市場が第2四半期以降回復しており、自動車部品の生産・販売が大幅に改善
 - 工場稼働が回復する中で従業員定着率改善のための対策を推進中

全般的に活動抑制による販管費等削減実施

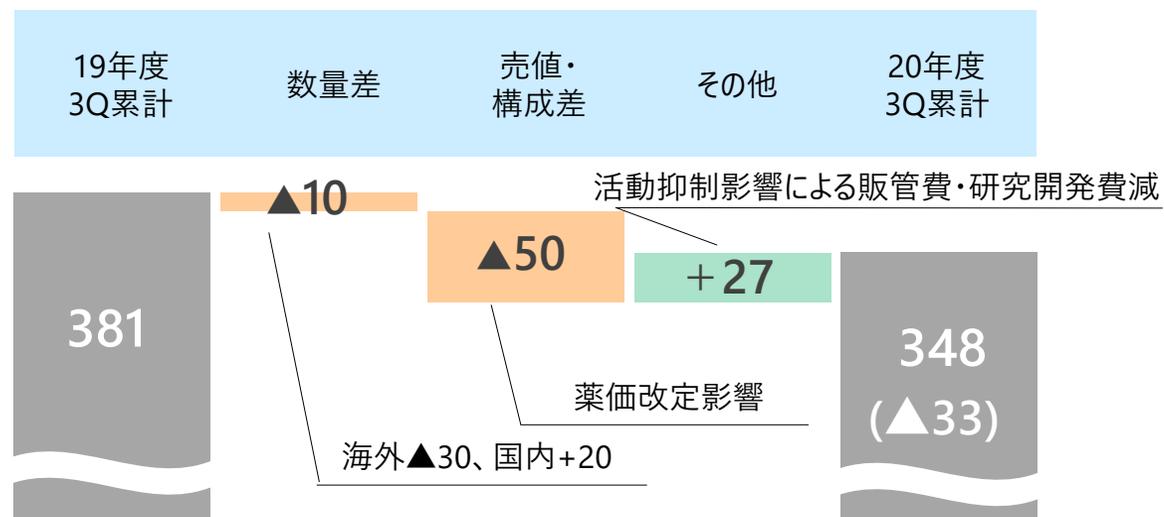
◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,192	1,119	-74	-6.2%
EBITDA	381	348	-33	-8.7%
減価償却費	90	89	-0	-0.5%
営業利益	291	258	-33	-11.3%
営業利益ROIC	46%	43%	-3%	

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



COVID-19の影響は軽微

■ 医薬品

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」を中心に国内での2020年4月の薬価改定の影響を受けた
- 「フェブリク」や先端巨大症・下垂体性巨人症/神経内分泌腫瘍治療剤「ソマチュリン*」の販売量は順調に拡大

■ 在宅医療

- 睡眠時無呼吸症候群治療におけるCPAP市場において、COVID-19影響により入院検査数が減少したが、市場拡大は継続。また、遠隔モニタリング算定要件が緩和され、診療支援ツール「ネムリンク」導入施設が増加
- 在宅酸素療法（HOT）市場においては、病院内の感染回避のため在宅医療導入が選択されるケースの増加が継続しており、レンタル台数が増加

■ 新ヘルスケア

- 人工関節・吸収性骨接合材等の埋め込み型医療機器事業はCOVID-19影響による手術延期の影響があったものの、第2四半期以降は手術数の回復及び新製品の販売拡大あり

* ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です

◆ 繊維・製品セグメント [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	2,314	2,371	+57	+2.4%
EBITDA	94	210	+116	+122.9%
減価償却費	52	47	-5	-9.3%
営業利益	42	163	+121	+286.8%
営業利益ROIC	4%	17%	+13%	

◆ ITセグメント [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	343	423	+80	+23.2%
EBITDA	61	75	+14	+22.3%
減価償却費	6	6	-0	-4.0%
営業利益	55	69	+14	+25.2%
営業利益ROIC	46%	58%	+12%	

■ 繊維・製品

- COVID-19拡大により需要が急増した医療従事者向け医療用防護具（ガウン等）の早期大量供給が、業績に大きく寄与
- 感染予防のヘルスケア関連製品や水処理膜向けのポリエステル短繊維の販売が好調維持
- 自動車関連部材は期間後半にかけて回復
- テキスタイル、重衣料は苦戦するも、在宅ウェアは堅調
- 活動抑制や経費削減努力で販管費減少

■ IT

- ネットビジネス分野の電子コミック配信サービスは、上期からの読者層の拡大を背景に、引き続き好調に推移

◆ 営業外損益 [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異
受取利息	7	5	-2
受取配当金	12	10	-1
持分法による投資利益	12	19	+6
為替差益	7	-	-7
デリバティブ評価益	-	3	+3
その他	7	11	+4
営業外収益 計	45	48	+3
支払利息	28	21	-7
為替差損	-	15	+15
デリバティブ評価損	3	18	+15
その他	21	18	-3
営業外費用 計	52	72	+19
営業外損益 計	-8	-24	-16

◆ 特別損益 [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異
固定資産売却益	0	18	+18
投資有価証券売却益	52	5	-48
段階取得に係る差益	-	20	+20
その他	5	0	-5
特別利益 計	58	43	-16
固定資産除売却損	16	7	-9
投資有価証券評価損	-	15	+15
減損損失	23	4	-19
事業構造改善費用	42	1	-41
その他	11	7	-4
特別損失 計	93	34	-58
特別損益 計	-35	8	+43

◆ 財政状態 [前年度末対比]

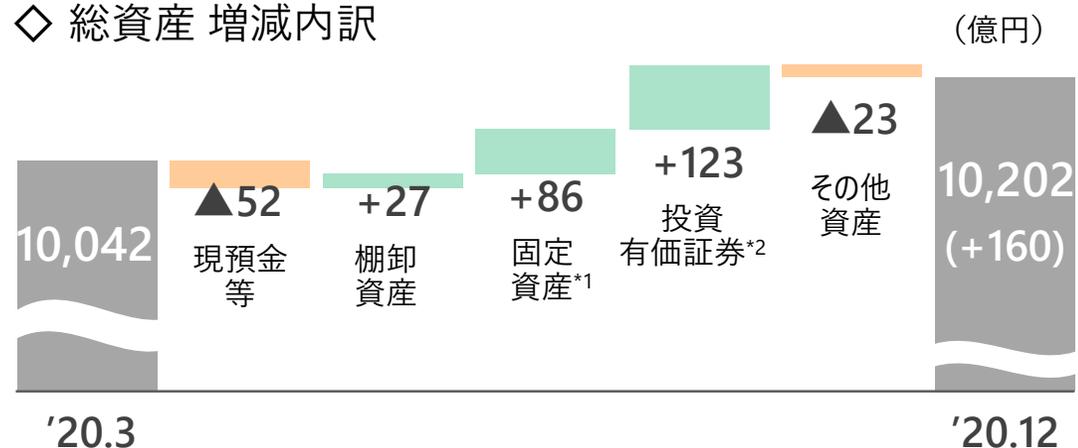
	(億円)			内 為替 換算影響
	20年 3月末	20年 12月末	差異	
総資産	10,042	10,202	+160	+27
負債	5,928	5,739	-189	+1
(内 有利子負債)	3,819	3,628	-191	-15
純資産	4,114	4,463	+349	+26
D/Eレシオ	0.97	0.85	-0.12	-
現預金等	1,565	1,513	-52	

◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

	(億円)		
	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異
営業活動	644	687	+42
投資活動	-484	-493	-8
フリー・キャッシュ・フロー	160	194	+34
財務活動他	43	-247	-290
現金及び現金同等物増減	203	-53	-256

* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇ 総資産 増減内訳



*1 設備投資の実施

*2 保有株式時価の上昇等

◇ BS換算レート

	20年 3月末	20年 12月末
円／米ドル	109	104
円／ユーロ	120	127

2. 2020年度業績見通し

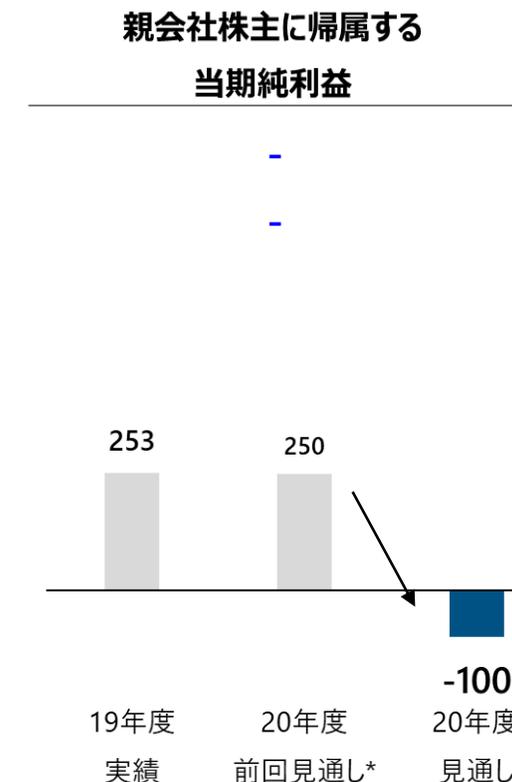
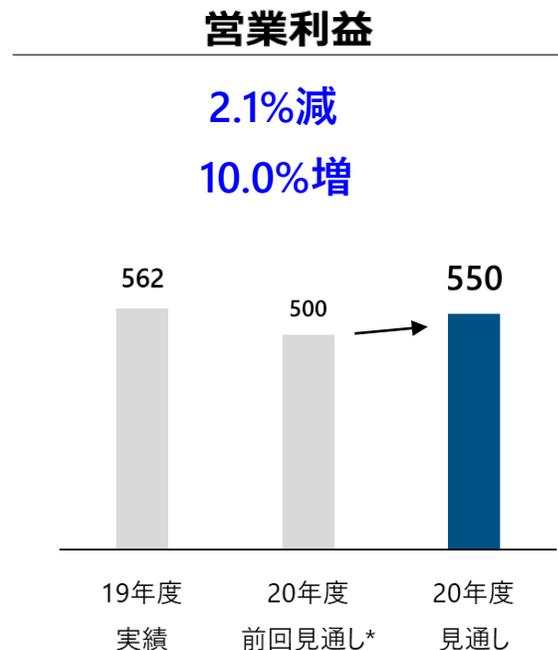
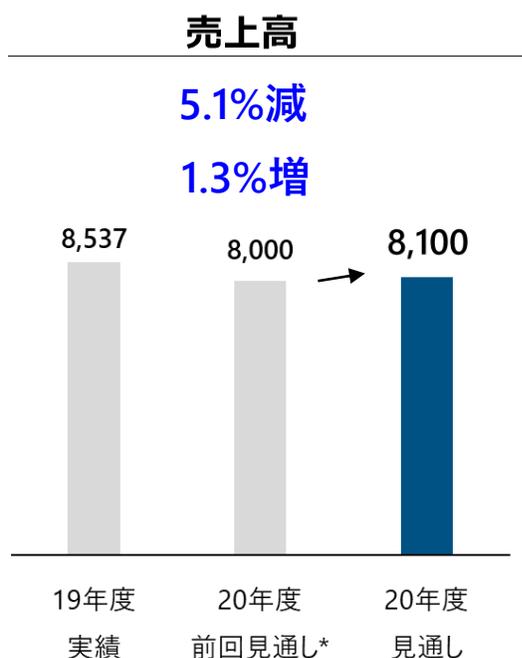
◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比、前回見通し*対比]

- 前年度対比、マテリアル事業におけるCOVID-19影響やヘルスケア事業における薬価改定影響により、減収・微減益の見通し
- 前回見通し対比、自動車を中心とする市場の回復や販売費および研究開発費の減少が想定を上回る見込みにより、売上高・営業利益ともに上方修正
- 当期純利益は、炭素繊維事業における減損懸念等を見通しに織り込み、赤字見込みに

前年度対比

前回見通し*対比

(単位：億円)



前提条件

		19年度	20年度 前回見通し*	20年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	109	106	106
	円/ユーロ	121	123	123
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		60	41	43

* 2020年11月2日公表

配当予想については前回見通しから変更しない
(中間：25円/株、期末予想：25円/株、年間予想：50円/株)

◆ 通期業績見通し [前年度対比、前回見通し対比]

	(億円)	19年度	20年度	差異	増減率	20年度	差異	増減率
		実績	見通し			前回見通し		
売上高		8,537	8,100	-437	-5.1%	8,000	+100	+1.3%
営業利益		562	550	-12	-2.1%	500	+50	+10.0%
経常利益		543	530	-13	-2.5%	480	+50	+10.4%
親会社株主に帰属する当期純利益		253	-100	-353	-	250	-350	-
ROE ^{*1}		6.3%	-3%	-9%		6%	-9%	
営業利益ROIC ^{*2}		8.7%	9%	0%		8%	+1%	
EBITDA ^{*3}		1,072	1,060	-12		1,020	+40	
フリー・キャッシュ・フロー		263	-70 ^{*5}	-333		60	-130	
設備投資 ^{*4}		686	600	-86		700	-100	
減価償却費		510	510	+0		520	-10	
研究開発費		345	330	-15		340	-10	

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出（*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

*3 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

*5 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングへの株式公開買付けに係る投資予定額を含む

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し対比]

	19年度 実績	20年度 見通し	差異	増減率	(億円)	
					20年度 前回見通し	前回見通し との差異
売上高						
高機能材料	2,364	2,020	-344	-14.5%	1,950	+70
複合成形材料	912	830	-82	-9.0%	800	+30
マテリアル 計	3,275	2,850	-425	-13.0%	2,750	+100
繊維・製品	3,063	3,000	-63	-2.1%	2,950	+50
ヘルスケア	1,539	1,500	-39	-2.6%	1,500	0
IT	486	600	+114	+23.5%	600	0
その他	174	150	-24	-13.6%	200	-50
合計	8,537	8,100	-437	-5.1%	8,000	+100
営業利益						
マテリアル	158	10	-148	-93.7%	0	+10
繊維・製品	54	180	+126	+232.5%	150	+30
ヘルスケア	326	310	-16	-4.8%	300	+10
IT	78	100	+22	+27.8%	100	0
その他	3	0	-3	-	0	0
消去又は全社	-58	-50	+8	-	-50	0
合計	562	550	-12	-2.1%	500	+50

■ 前年度対比

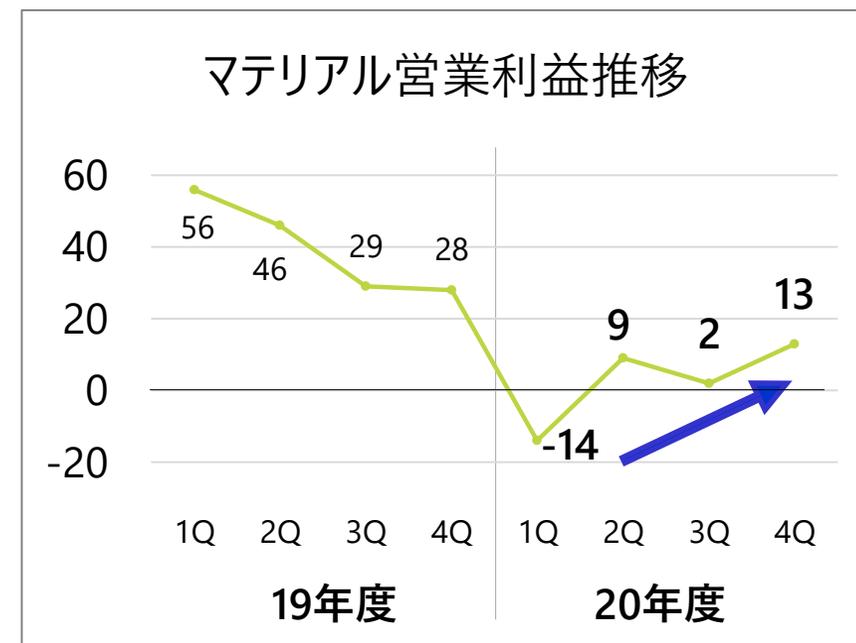
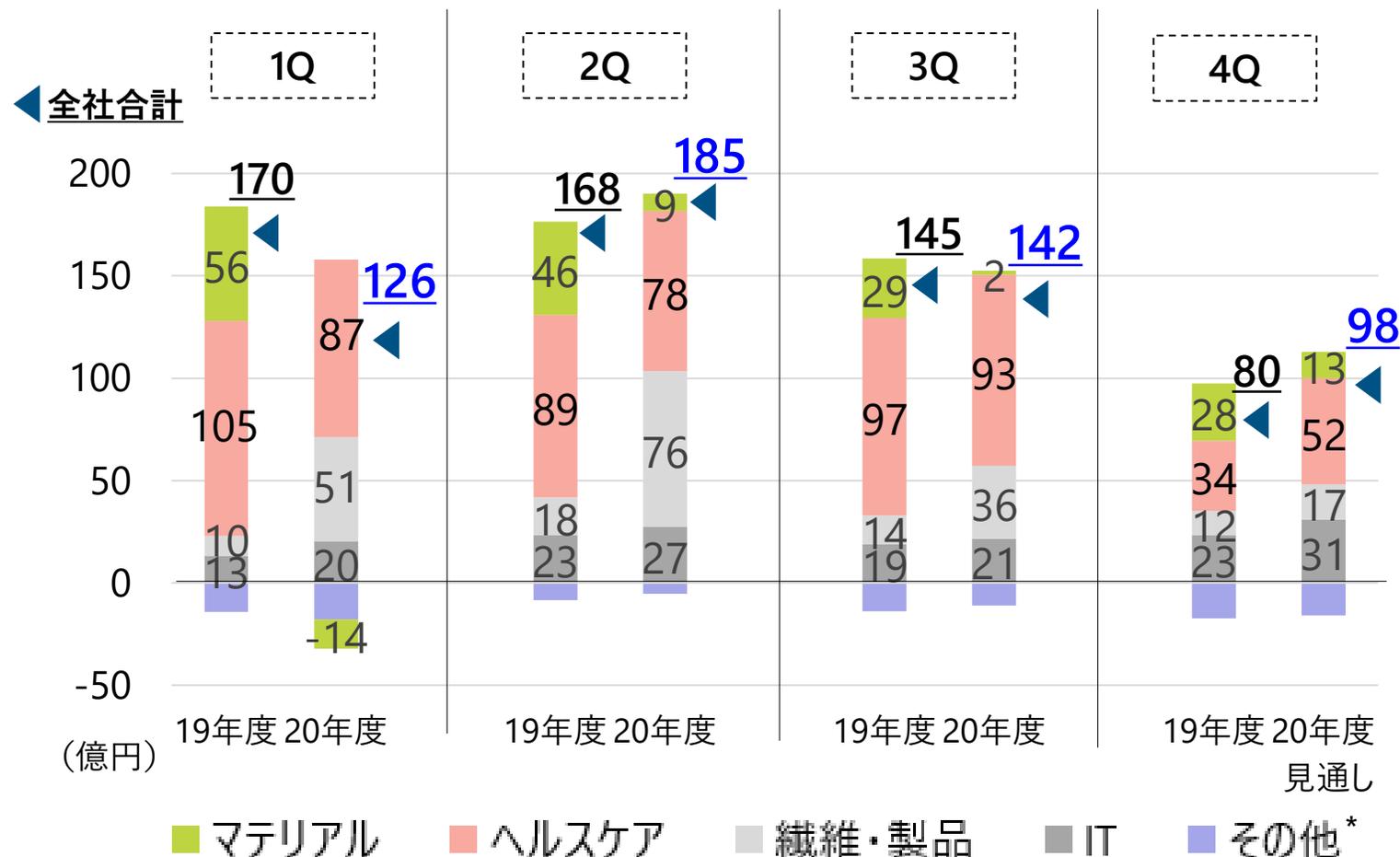
- ・マテリアル : COVID-19影響で上期中心に自動車・航空機関連用途等で販売量が減少し、減収・減益の見通し
- ・繊維・製品 : COVID-19影響を受けるが、医療用防護具（ガウン等）の貢献が大きく増益見通し
- ・ヘルスケア : 医薬品の薬価改定影響が大きく、減収・減益の見通し。「フェブリク」販売量や在宅医療機器のレンタル台数は堅調に推移
- ・IT : 電子コミック配信サービスは読者層の拡大を背景に増収・増益の見通し

■ 前回見通し対比

- ・マテリアル : アラミド繊維等で自動車関連用途の回復が早まり上方修正
- ・繊維・製品 : 自動車用途の想定以上の回復や在宅ウェア用途の伸長により上方修正
- ・ヘルスケア : 活動抑制影響で販売費・研究開発費等が減少
- ・IT : 好調を持続しており、前回見通しから変更なし

◆ セグメント別営業利益（2019年度・2020年度四半期ごと比較）

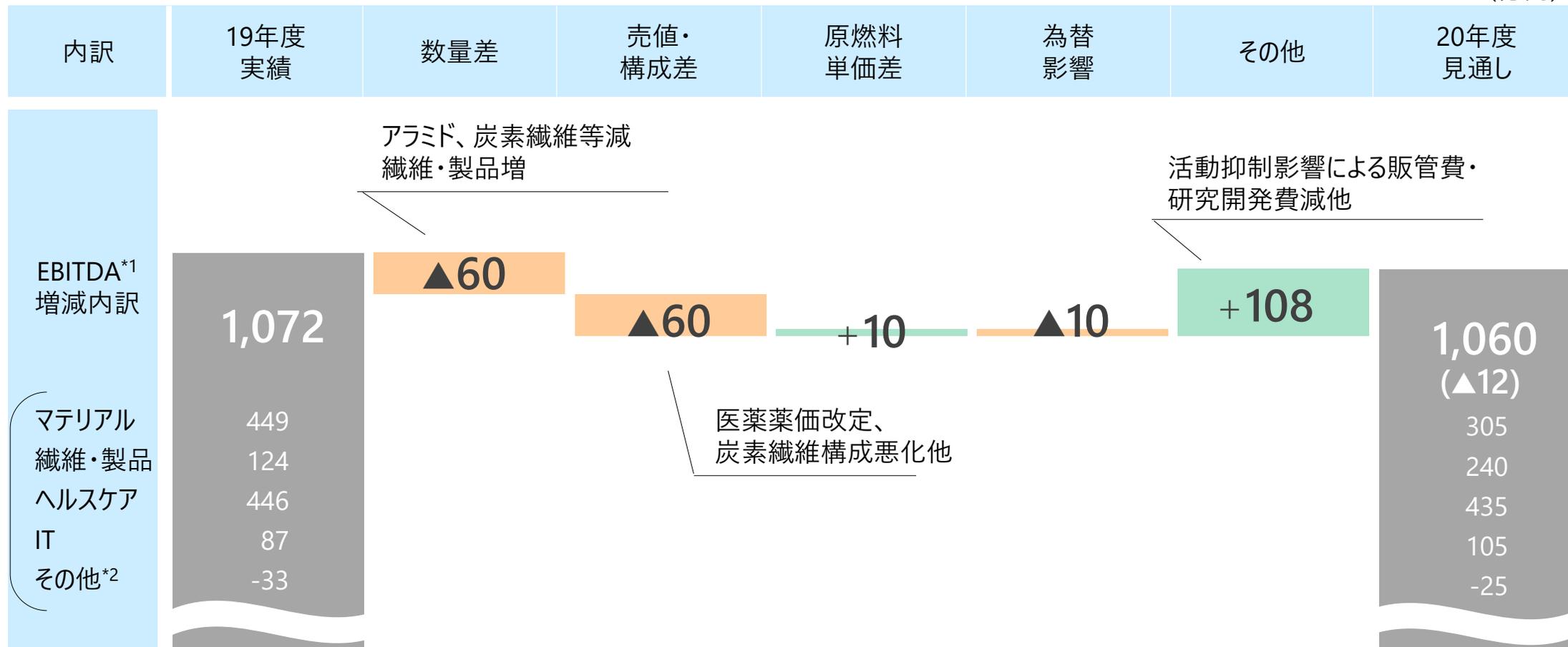
- 1QはCOVID-19影響を大きく受け前年同期対比減益も、2Q以降は対前年度並みまたはそれ以上に回復
- マテリアルは1Qの赤字から黒字へ回復。ヘルスケアは薬価改定影響あり。繊維・製品は上期に医療用防護具（ガウン等）が貢献。IT好調



* その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている

2020年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

- マテリアルのCOVID-19影響による自動車・航空機向け販売の減少やヘルスケアでの薬価改定影響が大きかった一方、繊維・製品の医療用防護具（ガウン等）の貢献や、活動抑制影響による販管費・研究開発費の減少により、EBITDAは同水準を維持（億円）

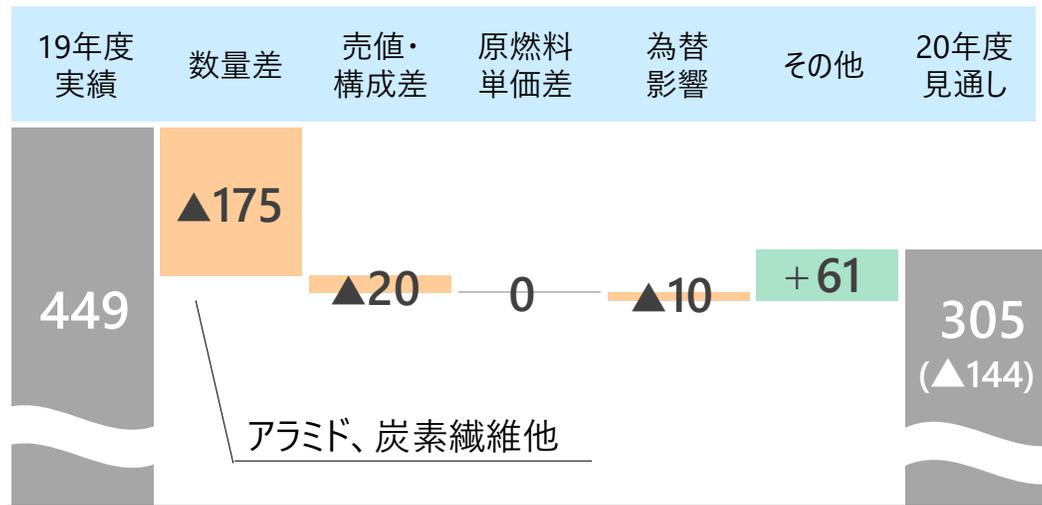


*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *2 その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている

2020年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

■マテリアル

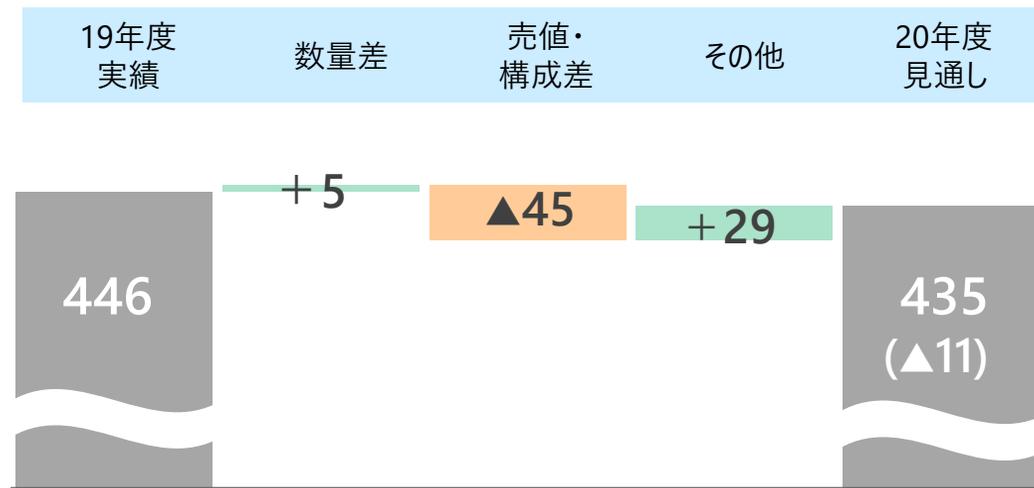
(億円)



- 数量差
各分野（アラミド、樹脂、炭素繊維、複合成形材料）で需要低下により減少
- 売値・構成差
炭素繊維・アラミドは販売構成悪化で減少、樹脂は売値上昇
- 原燃料単価差
炭素繊維・アラミドは原燃料単価下落、樹脂は単価上昇
- その他
販管費等削減による増加

■ヘルスケア

(億円)



- 数量差
国内：+40（「フェブリク」、在宅医療他で増加）
海外：▲35（海外医薬後発品影響で減少）
- 売値・構成差
薬価改定影響による減少、海外価格調整で増加
- その他
活動抑制影響による販管費・研究開発費減で増加

◆当期純利益見通し

一過性の損失発生懸念を織り込み赤字予想に

- 基礎的な収益力は維持
- COVID-19の影響を大きく受けている航空機市場が長期に低迷するとの見通し
- 炭素繊維事業において、相当程度の業績影響が見込まれ、当該事業の固定資産に係る減損損失等の特別損失を業績予想に織り込み、当期純利益見通しを下方修正

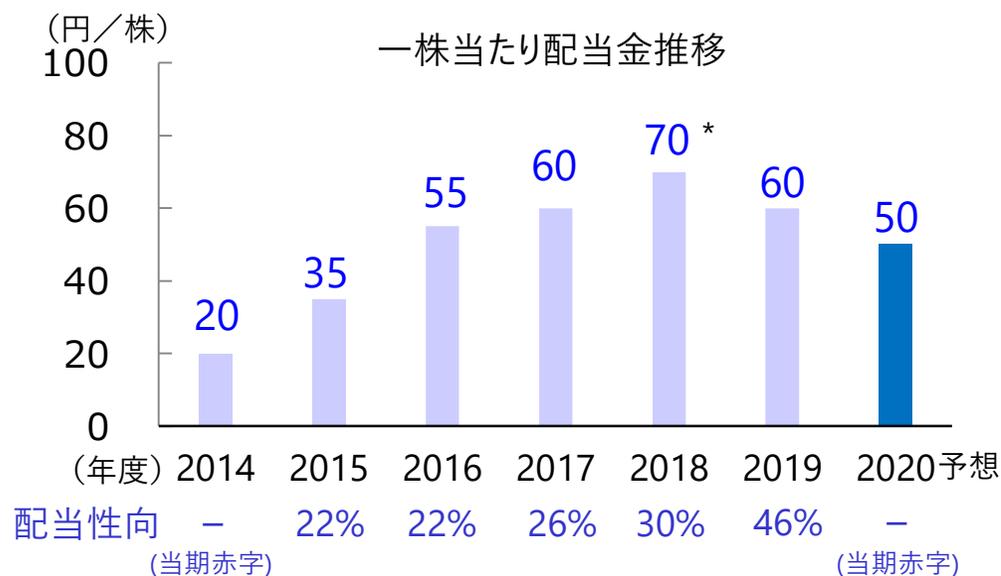
2020年度業績見通し

	(億円)		
	前回見通し	今回見通し	差
営業利益	500	550	+50
当期純利益	250	-100	-350

◆配当の状況

前回見通しから変更しない

- 「中期的な配当性向は当期純利益の30%目安」「安定的・継続的な配当」という配当方針
- COVID-19影響を受けるも収益性を維持。成長投資を継続する中でも、財務健全性は確保
- 期末配当は前回予想の25円（年間50円）を維持



*100周年記念配当10円/株を含む

注) 2016年10月1日をもって普通株式5株を1株に併合。配当金は株式併合の影響を踏まえて換算

- ◆ 業績指標
- ・マテリアル事業がCOVID-19影響を受けたものの、EBITDAは前年度並みに。ROEは減損損失計上見通しを受けて当期赤字予想となるためマイナス値に。一方、営業利益ROICは目標水準を上回る見通し
 - ・中長期の戦略的方向性は不変とし、中期2022年度計数目標の達成に向けて、COVID-19影響への対策を進めながら、将来に向けた成長基盤確立のための投資を実行する

	前中期計画 「重点分野選択」	中期計画2020-2022 「成長基盤確立」	
	19年度実績	20年度見通し	中計最終年度 (22年度目標)
ROE ^{*1}	6.3%	-3%	10%以上
営業利益ROIC ^{*2}	8.7%	9%	8%以上
EBITDA ^{*3}	1,072億円	1,060億円	1,500億円

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出（*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

*3 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

3. 主要トピックス

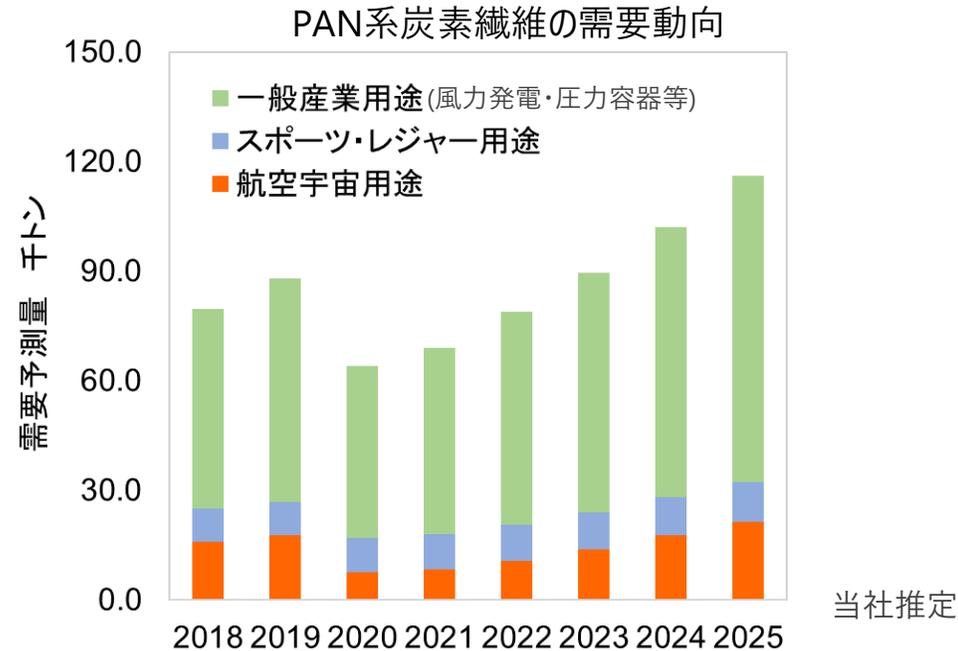
- ◆炭素繊維事業について
- ◆株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング株式（証券コード7774）に対する公開買付けの開始について

3. 主要トピックス

- ◆炭素繊維事業について
- ◆株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング株式（証券コード7774）に対する公開買付けの開始について

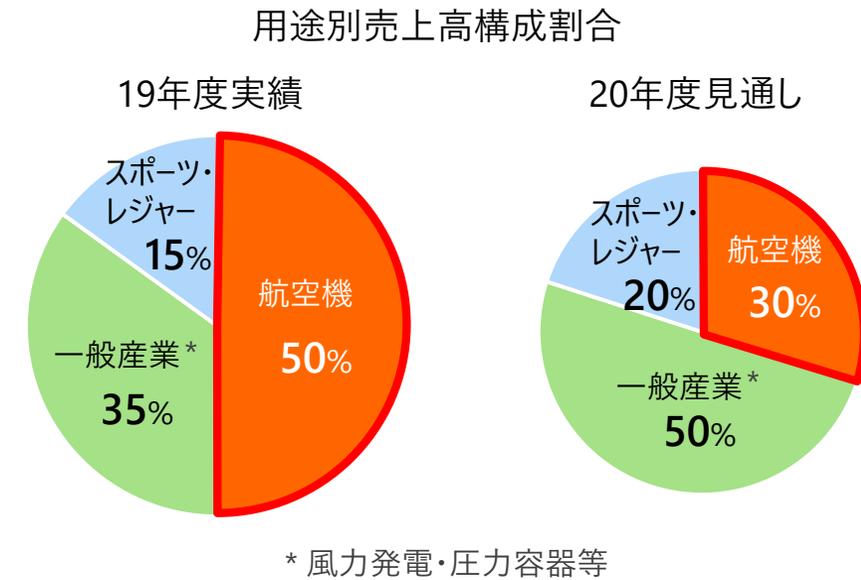
◆ 炭素繊維市場の需要見通し

- 航空機向けの2019年レベルへの需要回復は2024年頃
- 環境問題への対応で、風力発電、圧力容器向けの増加等が成長を牽引



◆ 当社航空機向け炭素繊維事業への影響

- 販売量は前年度対比6割強減
- 売上高構成割合は前年度対比20ポイント低下



◆ 北米炭素繊維新工場の生産・稼働計画の大きな変更

- 技術者等の渡航制限等により遅れが生じ、2022年に商業生産開始予定
- 航空機向けの生産は2023年開始を予定していたが、大幅に遅れる見込み

所在地	米国サウスカロライナ州
会社	Teijin Carbon Fibers, Inc.
生産能力	3,000トン/年

収益性の高い航空機需要低下を受け事業全体の将来計画に大きな影響があり、減損損失発生の懸念あり

◆事業の将来性

- グリーンリカバリーの流れの加速、モビリティ（特に航空分野）の軽量化ニーズの継続より、中長期の事業方針・戦略は不変
- 機体メーカーのプログラム遅延等あるも航空機需要は回復・伸長し、またeVTOL*1等のエアモビリティの新規需要も拡大
- 炭素繊維中間材料の性能高度化*2が、環境価値の向上（CO₂排出量削減）をさらに加速



エアモビリティイメージ

◆炭素繊維中間材料事業における考え方

市場

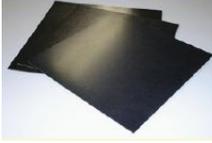
- 運行機数は今後20年間で大幅増加の見込み
- LCCの台頭や機体メーカー間の競争

機体メーカーのニーズ

- 材料価格だけでなく、短時間成形や生産効率向上などのソリューションへの要求強い

帝人の方針

- 航空機の生産プロセス効率の向上に寄与する熱可塑プリプレグや織物基材（NCF*3）の開発に優先的に資源投入し、シェア獲得へ（既に機体メーカーで開発プロジェクト進行中）

中間材料	定義・特徴
熱硬化プリプレグ 	<ul style="list-style-type: none"> • エポキシなど熱硬化性樹脂を炭素繊維に含浸させシート状にしたもの • 高い力学特性と長年の実績により信頼性が高い
熱可塑プリプレグ 	<ul style="list-style-type: none"> • PEEK、PEKK等の熱可塑性樹脂を炭素繊維に含浸させたもの • 熱硬化プリプレグに比べ、成形時間を大幅に短縮可能 • リサイクル、リペア性
織物基材(NCF) 	<ul style="list-style-type: none"> • 炭素繊維を複数方向、あるいは、一方向に並べ縫製した織物でRTM*4成形と組合せることが多い • 熱硬化プリプレグに比べ、成形時間を大幅に短縮可能 • 熱硬化プリプレグ並みの高い力学特性

*1 Vertical Take-off and Landing Aircraft *2 高強度、高弾性、易加工性

*3 Non Crimp Fabric *4 樹脂移送成形法(Resin Transfer Molding)

◆ 風力発電の需要拡大への対応

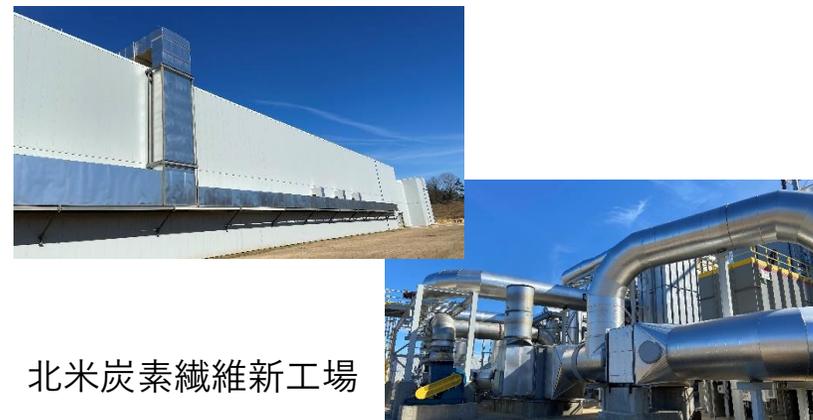
- 発電量の増加・風車の大型化に伴い、軽量化と強度向上の手段としてブレードにCFRP*1の適用が進む
- 引き続き需要は旺盛*2。足元では需給バランスが逼迫
- エンドユーザー・サプライチェーンと良好な関係を築き、着実に需要に対応していく



[出典：GWEC(Global Wind Energy Council)、IRENA(International Renewable Energy Agency)他をもとに当社推定]

◆ 将来に向けた北米炭素繊維新工場の稼働

- 生産開始当初は足元堅調な風力発電・レクリエーション向けを想定。中長期では航空機向けの生産を目指す



北米炭素繊維新工場

◆ ベトナム・プリプレグ新工場による中間材料シフトの推進

- 新工場が2021年3月に商業生産開始予定
- 顧客に近い立地を武器に糸売りから中間材料へシフト
- アジア市場での一般産業・レクリエーション向け中間材料販売の拡大を加速

所在地	ベトナム・ハナム省
会社	Teijin Carbon Vietnam
近況	2020年11月試運転開始

*1 Carbon Fiber Reinforced Plastic(炭素繊維複合材料) *2 年率10%の成長率を見込む

3. 主要トピックス

- ◆炭素繊維事業について
- ◆株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング株式（証券コード7774）に対する公開買付けの開始について



株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (J-TEC社)

Japan Tissue Engineering Co., Ltd.

対象会社概要

設立年	1999年
主要事業	<ol style="list-style-type: none"> 再生医療製品事業 主要製品：自家培養表皮ジエイズ® 自家培養軟骨ジャック® 再生医療受託事業 研究開発支援事業
本社・拠点	愛知県蒲郡市
売上高	23億円 (2019年度)
営業利益	▲2億円 (2019年度)
社員数	約200名 (2020年9月末時点)

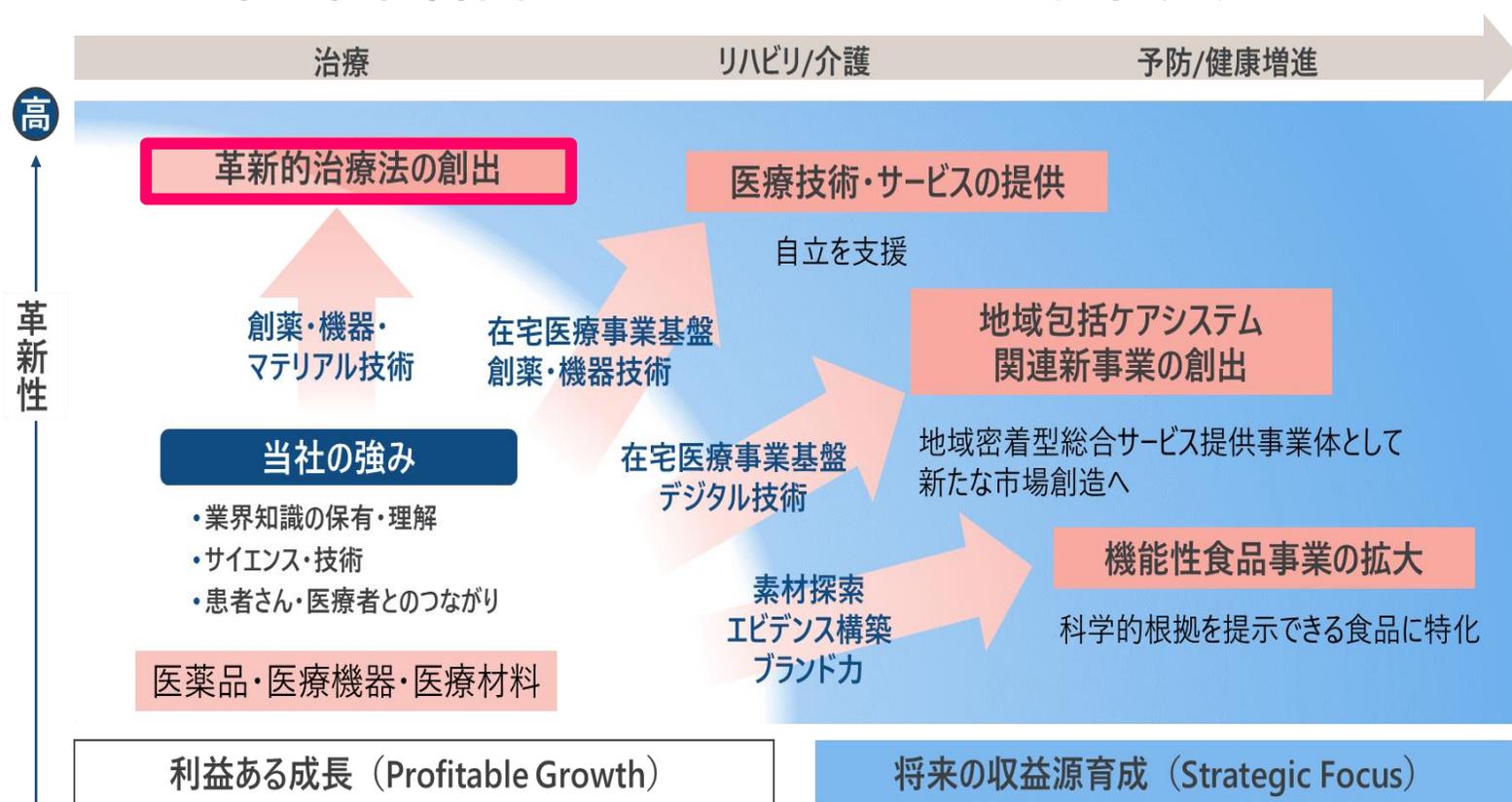
TOBの概要

市場	東証JASDAQグロース (証券コード7774)
期間	2021年2月1日 ~ 3月2日
買付価格	820円/株
買付下限	50.13% (20,358,400株)
買付上限	64.98% (26,389,900株)
状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現親会社の富士フィルム(株)(保有株式割合50.13%)と公開買付応募契約を締結 ✓ J-TEC社取締役会は本公開買付けに賛同、また帝人はJ-TEC社と資本業務提携契約を締結

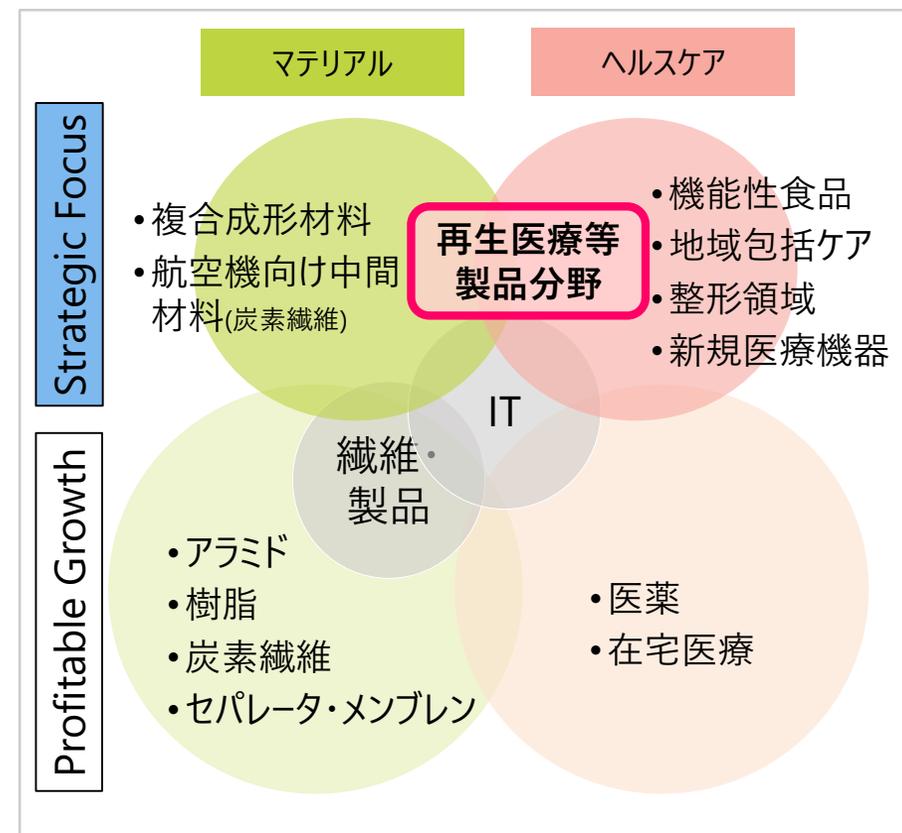
日本での再生医療のパイオニアであるJ-TEC社との協業により、**再生医療等製品*1分野**へ参入強化

- 再生医療等製品パイプライン強化により、ヘルスケア領域中期経営計画における「**革新的治療法の創出**」を加速
- ヘルスケア・マテリアル事業の協創領域としての、**再生医療等製品CDMO事業*2**への参入

中期経営計画2020-2022 ヘルスケア事業領域



2030年度 ポートフォリオイメージ

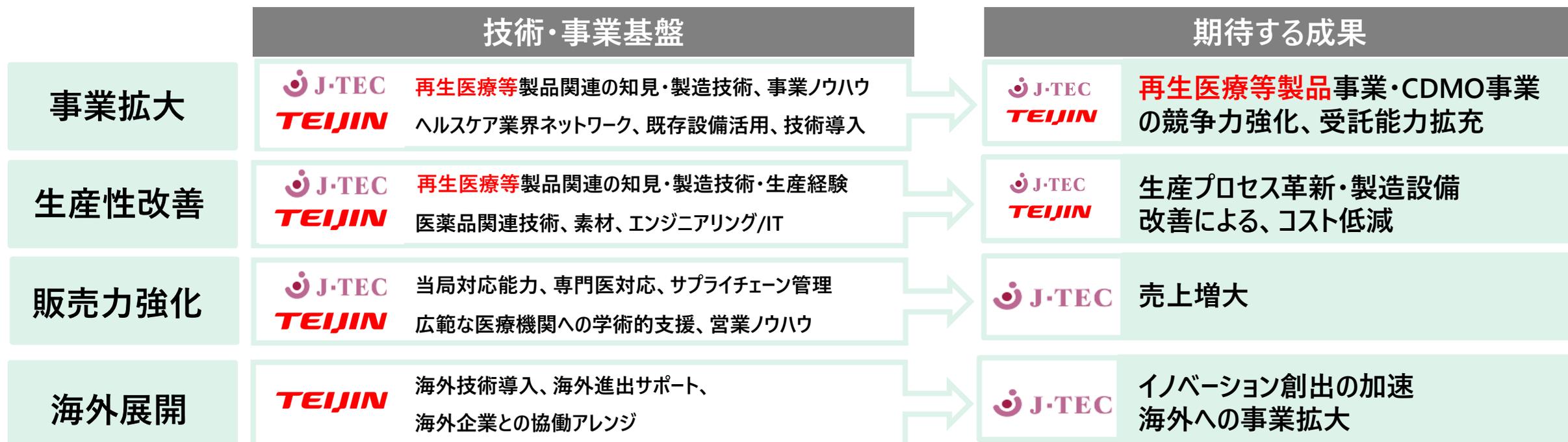


*1再生医療等製品：組織（皮膚、軟骨、角膜等を含む）移植、細胞治療、遺伝子治療（CAR-T細胞療法等を含む）を含む保険内治療に供する製品

*2 再生医療等製品CDMO事業：再生医療等製品の開発・製造を企業や大学・研究機関から受託する事業

J-TEC社の再生医療等製品*1と帝人の医薬品・医療機器等（特に整形外科領域）による製品・治療法のラインナップ強化により、患者さんひとりひとりの状態・ニーズに合わせた“テーラーメイドの治療ソリューション”（Personalized Medicine）の提供が可能

再生医療の高い専門性を有するJ-TEC社と、ヘルスケア・マテリアル領域での技術・事業基盤やエンジニアリング力を有する帝人が、互いの強みを集結することにより、再生医療等製品事業の強化および再生医療等製品CDMO事業*2への展開・拡大が可能



*1再生医療等製品：組織（皮膚、軟骨、角膜等を含む）移植、細胞治療、遺伝子治療（CAR-T細胞療法等を含む）を含む保険内治療に供する製品

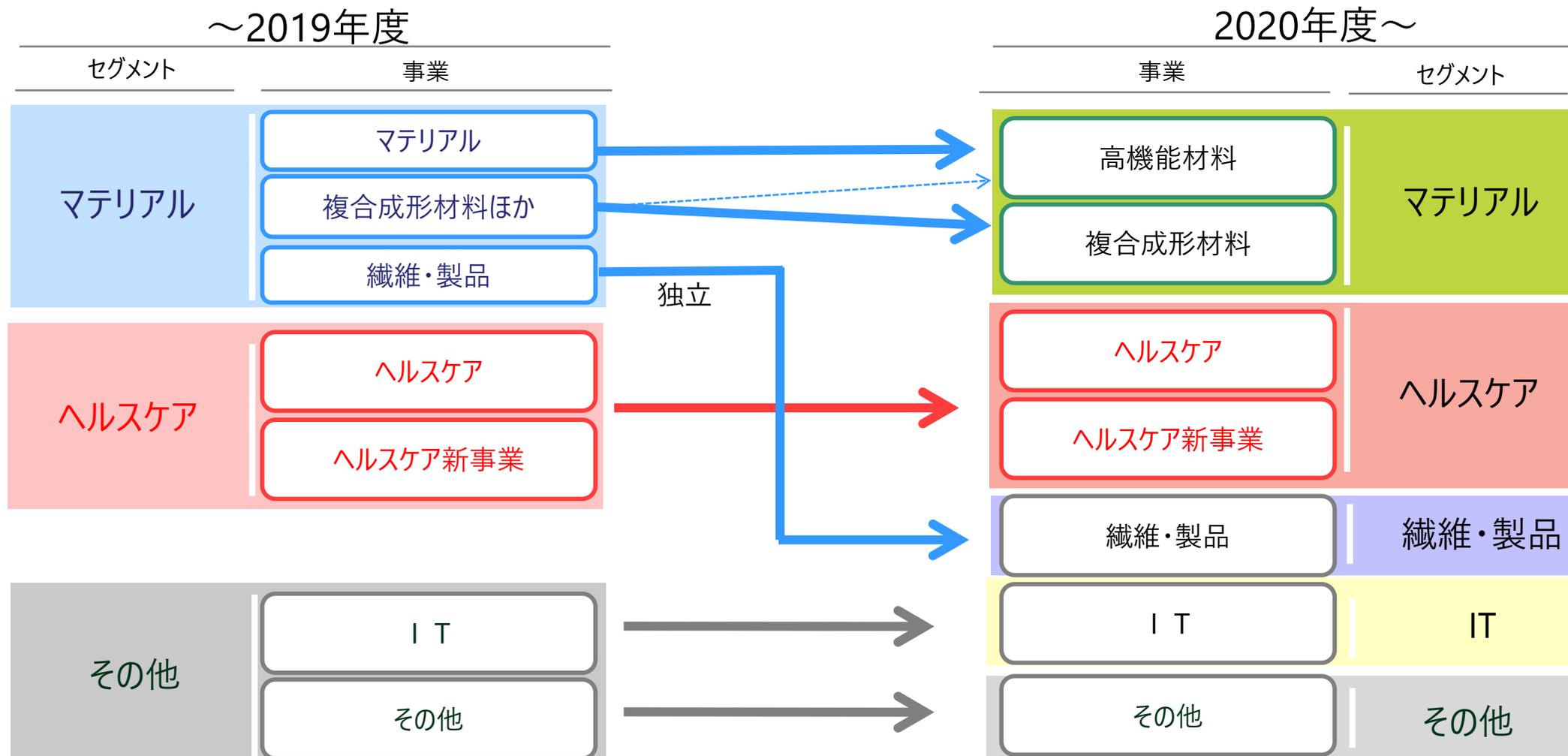
*2 再生医療等製品CDMO事業：再生医療等製品の開発・製造を企業や大学・研究機関から受託する事業

J-TEC社との協業により「少子高齢化・健康志向ソリューション」のさらなる拡充へ

4. 参考資料

開示セグメントの変更

- 2020年度より、マテリアルセグメントから「繊維・製品」を、その他から「IT事業」を独立させた新セグメントへ

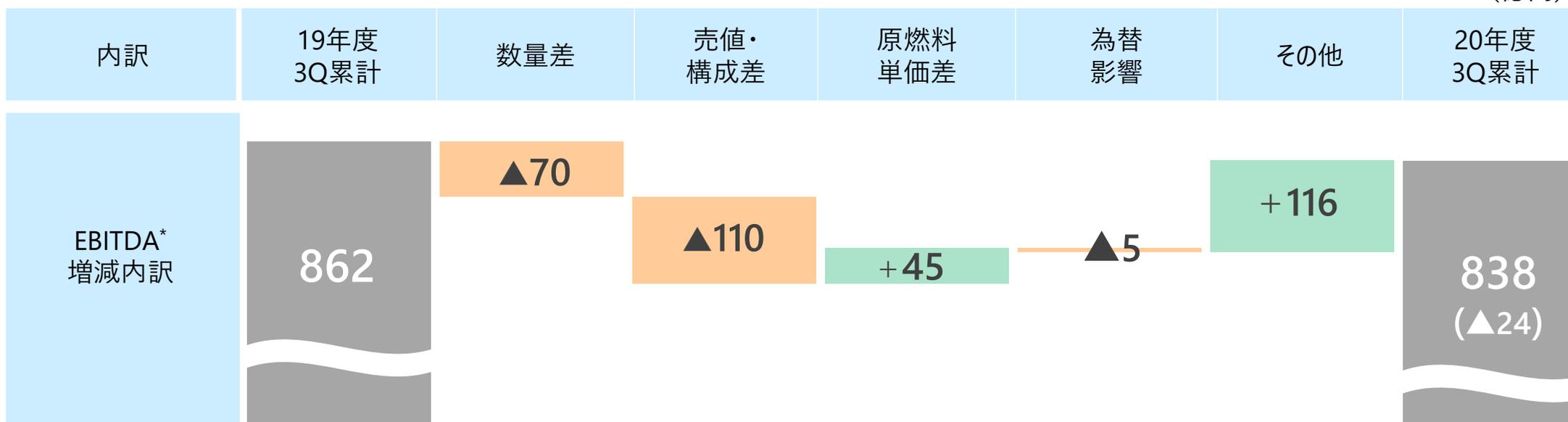


◆ EBITDA*増減 (連結合計) [前年同期対比]

(億円)

	19年度 3Q累計	20年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	6,475	6,097	-377	-5.8%
EBITDA*	862	838	-24	-2.8%
減価償却費	380	386	+6	+1.5%
営業利益	482	452	-30	-6.2%
営業利益ROIC	9.7%	9.3%	-0.4%	

(億円)



*「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比 及び 直前四半期対比]

	19年度					20年度			(億円)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	差異 20/3Q -19/3Q	差異 20/3Q -20/2Q
売上高										
高機能材料	633	624	556	550	2,364	438	476	544	-12	+68
複合成形材料	228	231	229	224	912	101	248	252	+23	+4
マテリアル 計	861	854	786	774	3,275	539	724	796	+10	+72
繊維・製品	738	804	772	749	3,063	716	865	790	+18	-75
ヘルスケア	398	391	403	347	1,539	362	369	388	-15	+20
IT	109	122	112	143	486	135	150	137	+25	-13
その他	40	42	41	50	174	39	42	45	+3	+3
合計	2,146	2,214	2,114	2,063	8,537	1,791	2,150	2,156	+42	+6
営業利益										
マテリアル	56	46	29	28	158	-14	9	2	-27	-7
繊維・製品	10	18	14	12	54	51	76	36	+22	-40
ヘルスケア	105	89	97	34	326	87	78	93	-3	+15
IT	13	23	19	23	78	20	27	21	+3	-6
その他	-0	3	-1	2	3	-4	1	2	+3	+1
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-58	-14	-6	-13	+0	-6
合計	170	168	145	80	562	126	185	142	-3	-43

◆ 連結損益計算書 四半期推移

(億円)

	19年度				20年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	2,146	2,214	2,114	2,063	1,791	2,150	2,156
売上原価	1,470	1,534	1,461	1,438	1,194	1,484	1,522
売上総利益	677	680	653	624	597	666	634
販管費	507	512	509	544	471	481	492
営業利益	170	168	145	80	126	185	142
営業外損益	-1	-6	-1	-11	-1	-7	-15
(内 金融収支)	-1	-5	-4	-4	-1	-3	-2
(内 持分法投資損益)	4	7	2	8	2	12	5
経常利益	169	162	144	69	124	178	126
特別損益	-18	-23	6	-93	-14	-11	33
税金等調整前四半期純利益	151	139	150	-24	110	167	160
法人税等	40	37	47	21	48	57	44
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	5	5	4	5	7	7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	97	97	-49	57	103	108

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

(億円)

	18年度		19年度				20年度		
	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
資産									
流動資産	5,227	5,239	5,116	5,255	5,280	5,053	5,026	5,131	5,074
固定資産	4,930	4,968	4,910	5,052	5,139	4,989	5,024	5,055	5,128
合計	10,157	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,202
負債・純資産									
負債	5,860	5,934	5,860	6,103	6,065	5,928	5,880	5,837	5,739
(内 有利子負債)	3,740	3,692	3,743	4,076	3,982	3,819	3,914	3,873	3,628
純資産	4,297	4,272	4,166	4,204	4,354	4,114	4,169	4,348	4,463
合計	10,157	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,202

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

(億円)

	19年度実績			20年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
高機能材料	1,257	1,107	2,364	914	1,106	2,020	-343	-0	-344
複合成形材料	458	453	912	350	480	830	-109	+27	-82
マテリアル 計	1,715	1,560	3,275	1,263	1,587	2,850	-452	+27	-425
繊維・製品	1,542	1,521	3,063	1,581	1,419	3,000	+39	-102	-63
ヘルスケア	789	750	1,539	730	770	1,500	-59	+19	-39
IT	231	255	486	286	314	600	+55	+59	+114
その他	83	91	174	81	69	150	-2	-22	-24
合計	4,360	4,177	8,537	3,941	4,159	8,100	-419	-18	-437
営業利益									
マテリアル	102	57	158	-5	15	10	-107	-41	-148
繊維・製品	28	26	54	127	53	180	+99	+27	+126
ヘルスケア	194	131	326	165	145	310	-29	+14	-16
IT	36	42	78	48	52	100	+11	+10	+22
その他	3	1	3	-3	3	0	-6	+2	-3
消去又は全社	-25	-32	-58	-20	-30	-50	+5	+2	+8
合計	338	224	562	311	239	550	-27	+15	-12

◆ セグメント別経営指標 [前年度対比 及び 前回見通し対比]

(億円)

	19年度 実績	20年度 見通し	差異	20年度 前回見通し	前回見通し との差異
EBITDA ^{*1}					
マテリアル	449	305	-144	305	0
繊維・製品	124	240	+116	210	+30
ヘルスケア	446	435	-11	425	+10
IT	87	105	+18	105	0
その他	13	10	-3	10	0
消去又は全社	-46	-35	+11	-35	0
合計	1,072	1,060	-12	1,020	+40
営業利益ROIC ^{*2}					
マテリアル	5%	0%	-5%	0%	+0%
繊維・製品	4%	14%	+10%	11%	+3%
ヘルスケア	41%	38%	-3%	35%	+3%
IT	49%	60%	+11%	60%	0%
合計	8.7%	9%	0%	8%	+1%

*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

2 「営業利益 ÷ 期首・期末平均投下資本^{}」にて算出（*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

◆ 主要経営指標推移

	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績 ^{*6}	18年度 実績	19年度 実績	20年度 見通し
ROE ^{*1}	10.6%	15.7%	12.5%	11.2%	6.3%	-3%
営業利益ROIC ^{*2}	12.7%	10.0%	11.2%	9.3%	8.7%	9%
EBITDA ^{*3} （億円）	1,060	958	1,155	1,076	1,072	1,060
1株当たり当期純利益（円） ^{*4}	158.1	254.9	231.3	232.4	131.6	-52.1
1株当たり配当金（円） ^{*4}	35	55	60	70 [*]	60	50
*100周年記念配当 10円／株を含む						
総資産（億円）	8,234	9,641	9,820	10,207	10,042	9,850
有利子負債（億円）	3,033	3,762	3,442	3,692	3,819	3,800
D/Eレシオ ^{*5}	1.01	1.11	0.88	0.90	0.97	1.0
自己資本比率	36.4%	35.1%	40.0%	40.2%	39.3%	39%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出（*投資家資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

*3 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

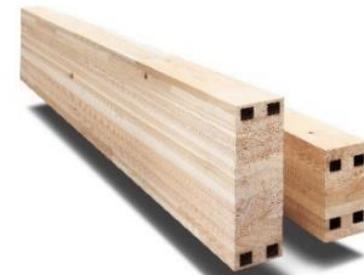
◆ 2021年1月までのニュースリリースまとめ

マテリアル

- 高機能繊維と木材のハイブリッド素材「LIVELYWOOD」ブランドでの展開開始
- 自動車向け複合成形材料事業の展開強化 ポルトガル拠点にCF-RTM成形設備を新設
- バイオ由来のpara系アラミド繊維の生産技術を開発
- 環境・安全・コストにおいて大幅に効率向上 マルチマテリアルによるバッテリーボックスの開発
- 自動車向け複合成形材料の次世代技術開発を加速 米国に先端技術の開発拠点を開設
- CSP Victall (Tangshan) Structural Composites Co., Ltd.の連結子会社化
 - ・ 帝人グループでの効率的な事業運営を行うとともに、当社技術の積極的な導入による事業拡大や生産性の向上を図ることで、グローバルでの事業基盤をさらに強靱化するべく子会社化しました。
- リチウムイオン電池用セパレータの展開を拡大 上海エナジー社と包括的ライセンス契約を締結
 - ・ 世界トップクラスの基材生産能力とコスト競争力を持つ上海エナジー社との既存ライセンス契約をより充実させ、対象用途を広げることでさらに幅広い需要に応えるべく、契約締結に至りました。
- 環境価値ソリューションのハブ機能として「欧州サステナブル先端技術開発センター」を新設

繊維・製品

- 着用する化粧品「ラフィナン」の商品展開を拡大 男性向けウェアタイプ化粧品を発売
- オンライン商談会用webプラットフォームの運用を開始
- 「バーチャル総合展2021A/W」を開催
- 英国の国立博物館とブランドライセンス契約を締結



「LIVELYWOOD」



開発したバッテリーボックス



「メンズ用美容ボディパック」40

◆ 2021年1月までのニュースリリースまとめ

ヘルスケア

● A型ボツリヌス毒素製剤「ゼオマイン筋注用」の販売開始

販売名	「ゼオマイン筋注用 50単位」「ゼオマイン筋注用 100単位」「ゼオマイン筋注用 200単位」
一般名	インコボツリヌストキシンA
剤形	注射剤（バイアル）
効能・効果	上肢痙縮

※「ゼオマイン」はメルツ社の商標登録です

- 帝人ファーマは、2017年に独・メルツ社から、本剤の日本国内における共同開発・独占販売権を取得し、上肢痙縮の新たな治療選択肢を目指して開発を進めてきました。そして、2020年6月に製造販売承認を取得し、11月18日に薬価収載となり、12月4日、販売を開始しました。
- 帝人グループのヘルスケア事業は、既に脳卒中等によりリハビリが必要な方の自立支援のため、リハビリ歩行神経筋電気刺激装置「ウォークエイド」や上肢麻痺のリハビリロボット「ReoGo-J」を展開しています。今回販売開始した「ゼオマイン」と合わせ、脳卒中発症から予後までの総合ソリューションの提供を目指しています。
- 新薬創出のスピードアップを目指して、帝人ファーマと中国の創薬ベンチャー企業TransThera社が業務提携
- 「心・血管修復パッチ」臨床試験の被験者登録が完了
- 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング株式（証券コード7774）に対する公開買付けの開始及び同社との資本業務提携契約の締結に関するお知らせ

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	19年度					20年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	99	100	105	82	386	87	89	96
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	25	24	24	21	94	21	21	23
ベニロン®	重症感染症治療剤	16	15	17	13	62	14	12	14
ソマチユリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 胼・神経内分泌腫瘍治療剤	11	12	12	12	47	13	13	14
ムコソルバン®	去痰剤	9	8	10	7	34	6	5	7
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	6	5	6	4	21	5	6	5
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	4	4	4	3	15	3	3	3
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3	3
ラキシベロン®	緩下剤	3	3	3	2	11	2	2	2
トライコア®	高脂血症治療剤	1	1	1	1	5	1	1	1

*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチユリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2020年12月末現在)

* 承認／新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	承認申請	承認／ 新規上市*
骨・関節 領域	TCK-276*1			ITM-058*2 NT 201L*3	NT 201*4
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TMX-049DN TMX-67HK			ITM-014T*5
その他		JTR-161	GGs-MPA*6		GGs-ON*7

*1 2020年2月 関節リウマチの適応取得に向けた第I相試験に着手

*2 2020年5月に「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」に対する製造販売承認申請を実施

*3 「ゼオメイン」の適応拡大として、2020年8月に「下肢痙縮」の適応追加に対する一部変更承認申請を実施

*4 2020年6月に「上肢痙縮」に対する製造販売承認を取得し、12月に販売開始

*5 「ソマチリン」の適応拡大として、2020年12月に「甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍」に対する適応追加の承認を取得

*6 「ベニロン」の適応拡大として開発中

*7 「ベニロン」の適応拡大として、2019年12月に「視神経炎の急性期（ステロイド剤が効果不十分な場合）」に対する適応追加の承認を取得

◆ 新規開発医薬品 (2020年12月末現在)

【承認取得/上市*】

* 承認取得/上市は直近1年間を記載

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎の急性期 (ステロイド剤が効果不十分な場合)	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年12月承認取得
NT 201 (インコボツリヌストキシンA)	上肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 2020年6月承認取得 2020年12月販売開始
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2020年12月承認取得

◆ 新規開発医薬品 (2020年12月末現在)

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058 (アバロパラチド酢酸塩)	骨折の危険性の高い 骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 2020年5月承認申請
NT 201L (インコボツリヌス トキシンA)	下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 (効能・効果追加) 2020年8月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2020年12月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社（効能・効果追加）

◆ 新規開発医薬品 (2020年12月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序 (CRTh2拮抗作用) によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果 (軽症患者) や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果 (軽症～重症の患者) が期待される。	錠剤	導入： 米GB001社
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-67HK (フェブキソスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品 (効能・効果追加)
JTR-161	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髓由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

◆ 新規開発医薬品 (2020年12月末現在)

【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TCK-276	関節リウマチ	関節リウマチに特徴的なパンプス増生の主要細胞である滑膜線維芽細胞に直接作用して増殖を抑制することで抗リウマチ効果が期待される新たなクラスの経口治療薬。	錠剤	自社開発品

J-TEC社との協業：用語の定義

用語	定義
再生医療	失われた組織や臓器の機能を、細胞を使って回復させることに主眼をおいた医療
再生医療等製品	<p>再生医療等製品は、以下に掲げる製品であって、政令で定めるものをいう</p> <p>(1) 人又は動物の細胞に培養等の加工を施したものであって、</p> <ul style="list-style-type: none"> イ 身体の構造・機能の再建・修復・形成するもの ロ 疾病の治療・予防を目的として使用するもの <p>(2) 遺伝子治療を目的として、人の細胞に導入して使用するもの</p> <p>引用：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構ウェブサイトより (https://www.pmda.go.jp/review-services/drug-reviews/about-reviews/ctp/0007.html)</p>
再生医療等製品事業	再生医療等製品の製造販売を行う事業
再生医療等製品 CDMO事業	<p>再生医療等製品の開発・製造を企業や大学・研究機関から受託する事業</p> <p>CDMO：Contract Development and Manufacturing Organization (医薬品の製剤開発や製造を受託する医薬品受託製造開発機関)</p>

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



FTSE Blossom
Japan

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



（注） MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

ESG関係に優れている株式銘柄として2つのプログラムに選定

「なでしこ」

女性活躍推進



「ホワイト500」

健康経営推進



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions